



ふるさと笠松の「ちょっといい話」128号



今年も満開の奈良津堤の桜並木：この春の美しい風景が毎年見られるように・・・

八幡町や奈良町あたり一帯の木曾川の堤防道路の両側に、ソメイヨシノを主に、多くの桜の木が植えられ、「奈良津堤の桜」として名所になっています。とくに、三角駐車場の堤防斜面には多くの桜の木があり、春の「さくら祭り」の時期には、毎年、多くの人で賑わいます。

この奈良津堤の桜は、かつて「奈良津千本桜」といわれ、現在よりも広い範囲に多数の木があったそうですが、堤防や堤防道路の改修、桜の木の寿命や病気のため、生育範囲や本数が減りました。しかし、町が中心となり、桜の木の移植や防虫などの維持管理を行い、現在では約200本の木がこの笠松の名所を保っています。

この「ソメイヨシノ」という品種を調べてみますと、開発されたのは今から百年くらい前で、一つの株から増やしているため、「ソメイヨシノ」はどの木も遺伝子が同じクローンということになるそうです。また、なぜ堤防に桜の木が多いのかということですが、根が張って堤防を頑丈にするというよりは、春先に花見等で訪れる多くの人によって堤防が踏み固められることに意味があるそうです。

さて、今年の桜の開花は例年より少し遅く、4月に入ってから満開を迎えましたが、3月末からの「笠松春まつり」では、多くの花見の人々で賑わいました。また、ちょうど春祭りと時期が重なり、八幡神社を訪れた人々が奈良津の桜に足を伸ばし、風で散り始めた桜の様子を楽しみました。

今後もこの自然や春の風景を残していけるとよいと思います。



取材を終えて・・・木曾川の流れが現在の位置になったのは1586年の大洪水によるものだと言われています。その頃の堤防の高さは、愛知県側よりも低く、何度も洪水の被害にあったようです。明治時代に入っても、愛知県側よりも低い堤防でしたが、1922年にやっとかさ上げが行われ、ほぼ同じ高さの堤防になったそうです。しかし、堤防に植えられた桜の木については詳細がわからず、今から100年くらい前からの様子が知りたくなりました。昔の情報がありましたら、事務局までご連絡ください。(388-3926：笠松中央公民館内)